

会 議 録

| | | | | | |
|--|--|----------------------|---|------|----|
| 会議の名称 | 第25期東村山市青少年委員の定例会（第24回） | | | | |
| 開催日時 | 平成27年3月12日（木）午後7時00分～9時00分 | | | | |
| 開催場所 | いきいきプラザ4階 教育委員会室 | | | | |
| 出席者 及び欠席者 | <p>●出席者：</p> <p>（委員） 藤澤功明会長・森田明美副会長・小島恵子委員・児玉光昭委員 佐々木悟子委員・鈴木史秋委員・多田啓子委員・谷橋由樹委員 ・宮崎貴幸委員・山本智治委員・横田昇委員・横山大吾委員・ 渡邊いつ子委員</p> <p>（市事務局） 曾我教育部長 社会教育課：平島課長・朝岡係長・石井</p> <p>●欠席者：</p> <p>（委員） 木村一樹委員</p> <p>（市事務局） なし</p> | | | | |
| 傍聴の可否 | 傍聴可能 | 傍聴不可 の場合は その理由 | / | 傍聴者数 | なし |
| 会議次第 | <ol style="list-style-type: none"> 1 青少年委員会長 挨拶 2 教育部長 挨拶 3 協議事項 4 活動報告 5 事務連絡 6 事務局より | | | | |
| 問い合わせ先 | 教育委員会教育部社会教育課社会教育係 担当者名 朝岡・石井 電話番号 042-393-5111（内線3514） ファックス番号 042-397-5431 | | | | |
| 会 議 経 過 | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 青少年委員会長 挨拶 2 社会教育課長 挨拶 3 協議事項 平成27年度「輝け！東村山っ子育成塾」事業計画（案）等 <p>はじめに第1回「白州キャンプ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●・先日行われた、担当者会議の結果を反映した日程表に基づき、説明を行う。 補足や不足事項はないか。 ●・夕食には全体のバランスを考えフルーツポンチを追加したい。また、朝食では地場野菜を活用したいがどうか。 （異議なく了承された） ●・テーマにある「生きる力」とは食事を作ることと考えて良いか。 ●・良い。 ●・朝食に予定されている燻製には具体的に何を用いるのか。 | | | | | |

- チーズやソーセージ等を考えている。
- 燻製の実施については班単位で行うことを考えると難しいのではないかと捉えるのではなく、一人一人が経験することが大切なのではないか。
- “ふりかえり”はキャンプから戻って後、行っていたと思うが、今回は現地で行うのか。
- 昨年のキャンプでは高速道路の渋滞が懸念された為、日程を前倒し帰庁した結果、早く到着でき、残りの時間をふりかえり等に充てた経緯がある。
- 現代の子どもを取り巻く状況として、直火に接する機会が減っていることを考えると“焼魚”の実施を断念してしまうのは惜しい。是非、実施したい。
- 改めてプログラム全体を見渡すと、小学校でも実施できるような内容ではないか。特に2日目は東村山でも実施できる内容ではないのか。
- 1日目のキャンプファイヤーの後に“星座観察”を、2日目の朝はラジオ体操を廃し、白州山の家周辺を散歩してみてもどうか。
- 特に散策時には熊にも注意をしていきたい。日程については担当でもう一度、検討してもらいたい。
- 了解した。

次に第2回「福祉体験」について

●事務局

- ボランティアセンターでの予備折衝について報告を行う。特に先方（協力団体）の事情からプログラム全体（一日）の協力は難しい旨、説明を行う。
- 今回は聴覚障害のある方々から協力をいただくこととなるが、日常生活用具の説明を可能であれば御本人からいただきたい。
- 聴覚障害のある方の生活を知る映像資料をお借りしてはどうか。
- 様々な制約があり、実施は難しいと思われるが、育成塾参加者と同年代の方々との交流を行うことはできないか。もしくはそれを理解することのできる資料は入手できないか。
- 参加者自身に読唇術等、“聞こえないこと”の体験ができるものはないか。
- 団体から協力を得られない約半日のプログラムについても内容の検討が必要ではないか。
- “聴導犬”等の動物の働きについてのプログラムはどうか。
- 福祉体験については以上のとおり様々な案が出たが、これらの案をボランティアセンターに対して提案を行い、その結果をふまえ、今後の検討を行ってはどうか。
(異議なく了承された)

次に第3回「世代間交流」について

- 「世代間交流」の“世代”捉え方について一言、申し上げたい。育成塾全体を俯瞰すると、参加者の傍らには青少年委員、リーダー、事務局がおり、「保育体験」では幼児との交流がある。このことから、育成塾で指す“世代”とは“高齢者”ではないかと考える。この方針で計画を進めたいがどうか。
(異議なく了承された)

最後に第4回「保育体験」について

●事務局

- 保育体験の実施について、市内の主な園では育成塾の参加人数の関係（園児数と育成塾参加人数の対比）で、一園実施では受入れが難しいという意見が出ている旨、説明を行う。
- このような報告があったが、二園分散での実施、他の企画への変更、一園実施可能な園をさらに探すという3つの選択肢が考えられると思うが、これを検討していきたいと思う。
- これを良い機会と捉え、二園分散実施を行ってみてはどうか。
- 二園分散実施では従来のように園児へのプレゼント製作は難しい。代替案を考えねばならない。
- 保育体験の要諦は参加者が幼児の生活の一端を知る“きっかけ”であると考えられる。それを考えると二園分散実施よりは園への負担や育成塾側のスタッフの分散を鑑み、一園実施可能な園があるのであれば、その園で実施をしたいがどうか。
(協議の結果承認された)
- それでは事務局には一園実施が可能な園の調整を依頼したい。

●事務局

・了解した。

4 活動報告

5 事務連絡

6 事務局より

以 上